

令和7年度 職員自己評価について

豊見城市立座安保育所

保育所では、保育所保育指針に基づき、保育の質の向上を目的として、職員による自己評価を実施しております。その結果について公表いたします。

1, 全体的な自己評価

全体として、保育の基本はしっかり実践できており、子どもを中心にした保育観が浸透している。その他、チームとしての基盤(学びあい・支えあう土台)があること、保護者対応の安定性(信頼関係を大切にする姿勢)、安全・健康への基本的な意識の定着が見られました。

2, 今後の課題

各項目において、「意識してできた」と「概ねできた」など個人差(経験・判断力)や実践の深さの違いによる「質のばらつき」があることがわかりました。今後の課題としては以下のとおりです。

- ① 専門性の「平準化」
- ② 振り返りと改善の強化
- ③ チームでの共有・仕組みづくり
- ④ 計画と柔軟な実践の向上
- ⑤ 地域との交流・ふれあいの機会が十分にできなかった

3, 評価と課題

自己評価の結果、職員一人ひとりが子どもたちの気持ちに寄り添い、安心して過ごせるよう日々丁寧に関わっている様子が見られました。また、保護者の皆様との信頼関係を大切にしながら、協力して子どもたちの育ちを支えていこうとする姿勢が感じられました。一方で、専門性の共有や振り返りの充実、チームとしての保育の進め方、計画と実践のさらなる工夫、地域との交流の機会づくりなど、今後取り組んでいきたい課題も見えてきました。これからも職員同士で学びあいながら、それぞれの良さを活かし、子どもたちにとってより安心して豊かな園生活となるよう努めていきたいと思っております。